

《目次》P1…学術大会開催報告 P2…学術大会発表報告 P3…学術大会実行委員を経験して  
P4…20周年記念祝賀会を終えて P5…20周年記念祝賀会の様子 P6…山梨県言語聴覚士会専門講座  
P7…ふじやま便 P8…ねんりんピック P9…失語症者向け意思疎通支援者養成研修会・郷育フォーラム  
P10…秋季士会長会議 P11…第24回山梨県失語症者のつどい P12…学術講演会参加報告  
P13…研修会参加報告 P14…理事会報告 P15…各局からのお知らせ・編集後記

## 第12回学術大会開催報告

一般社団法人山梨県言語聴覚士会第12回学術大会 大会長 高橋 正和  
(石和温泉病院)

令和元年12月8日(日)、山梨大学医学部キャンパス臨床大講堂にて開催されました一般社団法人山梨県言語聴覚士会第12回学術大会は、参加者80名(県士会員78名)にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加・ご支援をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。

今大会は「共生社会の実現に向けて～言語聴覚士がつなぐ地域の和～」をテーマとして、2つの特別講演、賛助会員による製品紹介、ならびに8題の一般口演があり、活発なご討議と学術的な研鑽に加え、多くの情報交換・収集をしていただけたことと存じます。

特別講演Ⅰでは、「笑顔の授業」～失語症理解の普及に向けた取り組み～として池田博之氏(東京海上日動)、流石巖氏(東京海上日動)、伊藤梓先生(鵜飼リハビリテーション病院)にご講演をいただき、この講演会活動にご尽力されている森田秋子先生(鵜飼リハビリテーション病院)を座長としてお招きいたしました。失語症の当事者である池田氏が職場に復帰し、苦労や葛藤を乗り越え、その中で自分の役割を獲得し、生き生きと活動されている姿はとても印象的でした。また、そのサポートをするご家族や上司、同僚の方々へのメッセージにも熱く込み上げてくるものがありました。言語聴覚士である伊藤先生からは、その支援として急性期から回復期、そして生活期の言語聴覚士の関わりなどをお話していただきました。特別講演Ⅱでは厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部の塩野勝明氏から「失語症者向け意思疎通支援事業について」の説明を受け、これまでの経緯や今後の展望など大変興味深いご講演をいただきました。また当日は、復興支援チャリティバザーも開催され、多くの皆様にご賛同いただき誠にありがとうございました。会期中はご不便をおかけした点多々あったかと存じますが、参加された皆様のおかげで大変充実した学術大会にすることができたと改めて感謝申し上げます。

末筆ながら、ご多忙の中、査読や座長をお引き受けいただいた先生方、学術大会の企画・運営にご協力いただきました県士会および実行委員の皆様心より感謝申し上げます。



## 第12回学術大会 発表報告

石和共立病院 太田 真未

今回発表させて頂くことを決めてから抄録提出まで時間がなく、データ収集をすることに時間がかかってしまい、準備不足のまま抄録提出となってしまいました。校正でご指摘頂いた内容を再度検討し直し、統計解析、抄録・パワーポイント作成など多くの先輩や後輩にアドバイスを頂きながら何とか形にすることが出来ました。

今回の学術大会の経験から日頃から定期的な再評価、データ収集の大切さを実感し、現在アウトカム評価の導入をすることができました。



また、当日は公の場での発表は久しぶりだったため、とても緊張しましたが、多くの先生方から貴重なご意見・アドバイスを多く頂き充実した時間を過ごすことができました。質疑に対して十分な返答ができず、私自身の勉強不足な面も痛感しました。頂いたご意見・アドバイスを今後の臨床及び研究に活かしていきたいと思えます。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。



開会式 内山会長



賛助会員の製品紹介



閉会式 元木実行委員長



復興支援チャリティバザー



ふじやま会員の作品紹介・販売



特別講演Ⅰ 左から流石巖氏、池田博之氏、伊藤梓先生



座長 森田秋子先生



特別講演Ⅱ 塩野勝明氏

## 第12回学術大会 実行委員を経験して

甲州リハビリテーション病院 今井 美紀

令和元年12月8日に行われました、山梨県言語聴覚士会第12回学術大会の実行委員として参加させていただきました。「共生社会の実現にむけて～言語聴覚士がつなぐ地域の和～」というテーマの下、演題や講演会を聞き、STとしてどのように力を添えていけるのか、考え学ばせていただく機会となりました。

実行委員は事務部として務めさせていただきました。部長・部員ともに日々の臨床で忙しい中で、業務後に集まり、話し合いや役割分担をして連携をとることは大変でしたが、協力し合える実行委員の皆様がいることの有り難さを感じました。発送作業や名簿の確認、案内の作成など、相談と報告なくしては行えないことも多く、力不足を感じながらも当日を迎えられた時には感慨深かったです。また、運営者・参加者として学術大会に参加できたことは、とても良い経験となりました。今回得た経験を、これからの臨床や活動に活かしていきたいと思えます。



実行委員会 事務部



## 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 設立 20 周年記念祝賀会を終えて

設立 20 周年記念祝賀会準備委員会 赤池 洋  
(山梨大学医学部附属病院)

令和元年 11 月 1 日（金）にアーバンヴィラ古名屋ホテルにおいて一般社団法人山梨県言語聴覚士会設立 20 周年記念祝賀会が開催されました。8 名のご来賓の方々を迎え、会員 65 名、賛助会員 3 名の総勢 76 名の参加者に出席して頂きました。祝賀会では一般社団法人日本言語聴覚士協会の深浦順一会長からのご挨拶、またリハビリ関連団体から一般社団法人山梨県理学療法士会の小林伸一会長、一般社団法人山梨県作業療法士会の山本伸一会長、一般社団法人山梨県介護支援専門員協会の鷺見よしみ会長よりご祝辞を頂きました。また、スライドにて 20 年間の県士会活動を振り返ることが出来、和やかな雰囲気で大いに会が開催されました。

当士会は 1999 年に設立され保坂敏男初代会長、そして現在の内山量史会長のもと 20 年を迎えることができました。これも会員の皆様のご理解とご協力、また他団体や賛助会員の皆様のご支援のおかげだと思えます。

当士会はこの 20 年間で会員数は 29 名から 138 名と増え、社会情勢が変化する中でも歴代理事の諸先輩方のご尽力により言語聴覚療法の社会的な位置付けを築きあげて下さいました。当士会は他県士会に比べ決して大きな職能団体ではありませんが、学術活動や広報活動など多くの事業に対して会員が一致団結して取り組まれてきたことは当士会の強みであり、改めて当士会の偉大さを知ることができました。これからも 10 年、20 年と県士会活動は続いていきますが、諸先輩方が築いてきた県士会を今後更なる進化に努めていけるように会員の皆様のご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

最後に約 1 年以上にわたり設立 20 周年記念祝賀会の準備に携わっていただきました内山会長、赤池三紀子副会長、河西事務局長、高橋理事、吉澤理事、桂川理事、また原稿執筆にご協力を頂きました小池理事、元木理事、池神理事、そして当日の運営に携わって頂きました社会局渉外部の皆様にご感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



## 設立 20 周年記念祝賀会当日の風景



写真上段左から日本語聴覚士協会深浦会長、当士会内山会長、赤池洋副会長、下段左から心温まるご祝辞を頂いた山梨県介護支援専門員協会鷺見会長、山梨県理学療法士会小林会長、山梨県作業療法士会山本会長



写真左：受付担当の財務部と渉外部、右：全て手作りの20周年記念のロゴ入り封筒と記念誌・記念品



設立 20 周年記念祝賀会準備委員会の企画として、当士会の 20 年を振り返るビデオ上映と「10 年後の自分」についてインタビューが行われた。

写真上：ビデオ鑑賞の様子

横：左側上段は後輩に対してコメントする武井先生と 10 年後の自分を語る海野先生（甲州リハ）。右側上段藤巻先生（竜王リハ）下段市野先生（城南）

## 山梨県言語聴覚士会生涯学習プログラム専門講座 「臨床実習 2018」～指導者の役割分担と環境調整～

令和元年10月4日（金）にぴゅあ総合大研修室において山梨県言語聴覚士会生涯学習プログラム専門講座「臨床実習 2018」が開講されました。講師は、当士会の会長である内山量史会長が担当してくださり、平日夜にも関わらず県外からも8名の言語聴覚士が受講し、55名の参加者が臨床実習の在り方について考える時間となりました。

内山会長の講義では、臨床実習の基本的な考え方から、近年の学生の動向およびその対応、また理学療法士会、作業療法士会の臨床実習で近年主流となってきたクリニカルクラークシップ（clinical clerkship：CCS）など、幅広い内容であり、その中にはより実践的な話もされました。実践的な内容として、内山会長の所属される春日居サイバーナイフ・リハビリ病院での臨床実習の実際が紹介されました。内山会長の病院では、臨床実習生を指導担当者1名でみるのではなく、言語療法科スタッフ全員でみているとのことでした。役割としては、「実際の臨床における実習指導」の他に「当日の実習の予定」「提出物の管理」「神経心理検査の指導」などを各スタッフが担当し、また「中間・最終評価」も全員で行うなど、実習生を取り囲むチーム指導体制をとっているとのことでした。1、2年目の若手スタッフにも検査指導者の役割を通じて、臨床実習に関わりを持たせるなど、1、2年前は学生だった若手の言語聴覚士だからこそ学生に対して親身になれるという点については、臨床実習指導者自身が忘れがちな気持ちかもしれないと反省しました。他にも「学生の居場所の確保」「デイリーノート指導の留意点」「学生へのフィードバック時の留意点」「着眼カトレーニング」「模擬家族指導」など、様々な工夫が凝らされており、受講者は真剣なまなざしで講義を受講している様子がみられました。

年々、言語聴覚療士のフィールドは広くなり、学生には専門的で質の高い学業を修めることが必要とされています。更に国家資格を取得後には臨床現場では即戦力として大きな期待がかかるなど、学生には以前よりも多くのものが求められるようになってきています。一方、言語聴覚士を目指す学生は多様化してきており、臨床実習での学生へのタスクの調整は難しく、現場の言語聴覚士が悪戦苦闘しているのも事実です。今回の講義は、それらの課題に対するヒントが多くあり、受講者が充実した表情で講義を終えた様子がみられました。

日々の臨床業務や協会活動でお忙しい中、当士会会員のために時間を設けてくださった内山会長、本当にありがとうございました。



左：左より内山会長、学術部赤池副部長、元木部長、小池局長。  
右上：講義風景。  
右下：講義資料。資料は30枚に及ぶ中身の濃い内容。



「ふじやま」の活動は2年目に入り、顔なじみの会員も増えてきました。2ヶ月に1回の定例会で会えることが楽しみとなり、互いに協力し主体的に参加する場面が増えていきます。



第6回定例会（参加者47名）  
「暑い時こそ元気に挑戦！～流しそうめん～」



第7回定例会（参加者28名）  
「食欲の秋です。ぶどう棚の下で会いましょう」



「一版多色版画」に挑戦！

第8回定例会（参加者18名）  
「第24回山梨県失語症者のつどい」へ参加

令和2年1月現在、正会員数は当事者23名、家族7名になりました。  
これからも当事者・家族が求める活動と参加のあり方を意識した友の会運営に努めていきます。

作成：「ふじやま」運営委員会

## いきいき山梨ねんりんピック 2019 イベント開催報告

山梨県言語聴覚士会 社会局広報部 高橋 正和  
(石和温泉病院)

令和元年9月28日(土)小瀬スポーツ公園にて開催され、秋晴れの中、272名(男性106名、女性166名)の方が当士会のブースを訪れました。当士会では、“誤嚥性肺炎の予防と理解”をテーマにイベントを行いました。参加者には①誤嚥性肺炎についての説明 ②ピークフローメーターを用いた咳嗽力の測定 ③「呼吸」「発声」「摂食嚥下」に関する自主訓練に関するリーフレットの配布 ④自主訓練用の吹戻しの配布を行いました。

今回で同テーマでのイベントが3年目となり、続けて参加して下さっている方の中には、昨年の結果と比べ自主訓練の効果を楽しそうにお話ししていた方もいらっしゃいました。誤嚥性肺炎に対する関心は高く、咳嗽力の測定では順番待ちの行列もでき、参加された方々は測定結果に一喜一憂し、“来年の為に練習してくる”“誤嚥性肺炎の怖さについて学べ、何に気を付けたらよいのか分かった”など好意的な意見を頂きました。

言語聴覚士の専門性を“もっと広報してほしい”という建設的な意見も頂き、地域貢献の方法についても考える機会となりました。言語聴覚士として生活支援や地域活動への参加の重要性を肌で感じ、今後も言語聴覚士が地域でより身近な職業となるように、PR活動を行ってまいります。



## 失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修の参加

湯村温泉病院 池神 多加子

令和元年 10月 26・27日、TKP市ヶ谷カンファレンスセンターにて開催されました失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修を坂井李菜先生と共に受講し、修了しましたことを報告いたします。

講義では、支援者としての心構えにはじまりコミュニケーション支援技法を構造化して捉え会話を進めていくことについて繰り返し説明があり、日頃の臨床を振り返る良い機会となりました。また、すでに養成講座を開いている県の具体的な話からは、検討が必要な事柄が多くあることを知ることができました。そして何よりもこの事業が活用されるためには当事者と支援者のマッチングが重要であり、日頃より支援者と当事者が顔なじみになり関係性を築ける場という点で友の会が果たす役割が大きいことを感じました。

一昨年、当県士会では失語症友の会「ふじやま」を設立しました。当事者の活動と参加を広げることはその人らしく生きる尊厳をも回復させることに繋がると思います。先に研修を終え指導者となられた先生方と協力し、行政との連携を深めながらこの事業が進むよう取り組んでいきたいと思っております。

## 郷育フォーラム2019 職業体験イベント開催報告

山梨県言語聴覚士会 社会局広報部 高橋 正和  
(石和温泉病院)

令和元年 10月 6日(日) 甲府市総合市民会館にて開催された郷育フォーラム2019に、当士会では初となる子ども向けの職業体験ブースを出展いたしました。郷育(きょういく)フォーラムとは、山梨の将来を担う子どもたち、そして子どもたちを育てる大人たちに対して、生活・子どもを育てる上で役に立つ情報を提供するイベントで、今年の来場者は2000名でした。

「家族の誤嚥性肺炎の予防のために」をテーマとして、子どもたちは頸部聴診や咳嗽力の測定、とろみ水の試飲を体験しました。また、誤嚥性肺炎の予防として、おでこ体操や巻き笛ブローイング、発声練習などを紹介しました。職業体験では、当初16名の受け入れ予定でしたが、20名の子どもたちが参加し、当日は大忙しでした。親御さんに促されて嫌々参加していた男の子が、体験後に“元気でいて欲しいから、今度おじいちゃんに教えてあげる”と笑顔で答えてくれました。言語聴覚士として子どもたちの思いやりを育む機会となり、私たちにとっても有意義な機会となりました。



## 令和元年度秋期都道府県士会会長会議報告

湯村温泉病院

赤池 三紀子

令和元年11月2日(土)、朝日生命大手町ビルにて都道府県士会会長会議が開催されました。

まず深浦会長から挨拶と台風などの災害対策状況や来年度の協会事業など説明がありました。次いで各部・委員会からは以下の通り、報告・説明がありました。



写真は前日の当士会20周年記念祝賀会へご足労いただき、この会議に白州ピンバッジを付けて登場したご満悦の会長と会議後の意見交換会の様子です。

1.言語聴覚障害領域に長く貢献しこの発展に尽力された方の功績をたたえて「20周年記念式典での厚生労働大臣表彰」が令和3年3月14日(日)に執り行われることが発表された(会長)。

2.国内の日本語を母国語としない患者・対象者への対応・援助のために非日本語話者対応STの名簿作成についての協力とお願いがあった(国際部)。

3.来年の「言語聴覚の日」イベント共催は、沖縄県と福島県(広報部)。

4.平成30年度診療報酬改定の影響調査「医療保険におけるリハビリテーションの実態調査」がPT・OT・ST協会合同で実施され集計結果がHPに発表された(医療保険部)。

5.地域リハビリテーション活動支援に資する人材育成事業は地域包括ケア推進コースが946名、介護予防コースは882名が修了した(介護保険部)。

6.常任理事会の権限と事業計画及び収支予算については理事会承認後、総会においては報告のみとする定款変更について提案があった。また協会員と県士会会員の一致については次回の会長会議に提案できるように具体的に検討していく(規約管理部)。

7.台風15・19号関連被害対応についての報告と災害対策マニュアル(2019.9.1版)と災害対策研修プログラム(2019.9.1版)についての説明があった(災害対策部)。

8.来年度第1回全国研修会は茨城学会時、第2回はオリンピックのため9~10月頃で未定、第3回は静岡・福岡(11月29年度日)に開催予定。基礎講座は講義用資料を毎年5月頃を目途にダウンロードにより配布できるように用意する(生涯学習部)。

続いて協会活動①来年度の診療報酬改定においてSTの職名追記を中心に7件の要望事項を提出したこと②医師の働き方改革(タスク・シフティング)に法改正がなくても言語聴覚士ができる業務3件について厚生労働省にヒアリングにて報告したこと

③失語症者向け意思疎通支援者事業第3回指導者養成研修について説明がなされ、活発な質疑応答がありました。最後にPT・OTの養成に関する指定規則や養成ガイドラインの改定の報告があり、その後の意見交換会につながりました。

今年も当士会は協会と結束しながら事業展開してまいりますので、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## 第24回山梨県失語症者のつどい

巨摩公立病院 原田 史佳

令和元年11月24日に、第24回山梨県失語症者のつどいが大木記念ホールで開催されました。私は4年ほど実行委員として、この失語症者のつどいに関わってきましたが、今年は、訪問リハビリで関わっている失語症のK様と一緒に参加してきました。各友の会の発表や、コミュニケーションワークショップではチーム対抗戦ゲームをしたり、赤池洋先生より災害時のリハビリ支援についての講演、また、創作活動では講師に教わりながら1人1作品、一版多色版画を作成しました。K様は、初めての参加でしたが「皆さんにあいさつをしたい！」と仰り、マイクを持ち、発症から今現在までの経過など思いを話す場面もありました。とても堂々とされ立派なスピーチでした。リハビリ以外でK様とお会いするのは初めてでしたが、往復の車の中で雑談をしたり、大木記念ホールの周辺は馴染みの場所でもあったので、つどいが終わってから散歩をしたりと、生活者としての普段のK様を知る事もできました。翌週のリハビリでは「こんなに失語症の方がいるなんて知らなかった。芸術活動も楽しかった。お世話になった人にも会いに行けて嬉しかった。」と感想を述べられていました。

友の会に参加されていない失語症の方や友の会やつどいの事を知らない失語症の方ももっといらっしやると思います。その方々にも声をかけて、一緒に出かける場、一緒に話せる場を共有していければと強く思いました。



創作活動『一版多色版画』  
自由に表現し、世界で1つだけの作品を作りました。  
最後に各々発表をしました。



『コミュニケーションワークショップ』  
一位になれば豪華賞品がもらえるので、  
チーム一丸となって、クイズに取り組みました。

# 研修会 参加報告

## 学術講演会1「失語症の文字に関する評価・訓練」

甲州リハビリテーション病院 佐藤 綾美

令和元年9月13日新貝尚子先生によるご講演に参加しました。今回伺った話の中には、学生の頃に教わったけれど曖昧になっていることもあり、個人的には反省が多くあった講義となりました。そのため、自分の頭の中から覚えている知識を引っ張り出しながら、新鮮な気持ちで勉強させていただきました。

読みに関して、漢字と仮名における差や、語彙性、心像性、親密度、一貫性などの様々な属性や、認知神経心理学的な視点から読みを見ていくことで、読みだけでなく失語症の障害構造を知る手がかりになると学びました。しかし、これまで自分が行っていた検査では、みることができない部分もあると知りました。

今回学んだことを生かして、今後は、読みそしてそれ以外の場面でも、細かく丁寧に症状を見ていきたいです。そして、患者さんにとってより効果的な治療を考えていきたいです。失語症の文字に関して第一人者である新貝先生のご講演を聴く貴重な機会を頂きありがとうございました。



## 学術講演会2「脳画像による高次脳機能障害と残存機能の予測と理解」

国立病院機構甲府病院 小松 富美子

令和元年12月13日に「脳画像による高次脳機能障害と残存機能の予測と理解」をテーマに大村優慈先生よりご講演を賜りました。

今回の講演は、各脳画像の特徴、脳の解剖・機能局在、CT画像上の血腫の経時的变化、血腫量の求め方、損傷部位と高次脳機能障害、局在を理解しCT画像に部位を描き込む等、幅広い内容をお聴きすることができ、大変参考になりました。

各種検査の特徴を知ること、発症直後はDWI、数日後にはFLAIRなど病巣を経時的变化で観察できるといった、基礎的な内容を画像で示していただいたことで、とても分かりやすく理解することができました。脳の機能局在では、病巣によって同じ無視であっても知覚型と探索型に分かれる等、損傷部位から予測される高次脳機能の症状を細かく知ることができました。脳の機能局在を理解したうえでCT画像に直接描き込むことで、脳の部位と高次脳機能障害の両方の理解が深まりました。今回の講演を日々の臨床に活かしていきたいと思っております。



## 「地域リハビリテーション従事者研修会」

甲府城南病院 市野 直樹

今回、長崎リハビリテーション病院の栗原正紀院長に「地域包括ケアにおける自立支援に向けた多職種連携～これからの地域リハビリテーションを考える～」というテーマでご講演を頂きました。講演では、リハビリテーションの概要、長崎リハビリテーション病院の開設準備から現在に至るまでの取り組み、長崎市における地域包括ケアシステムの実際など、地域リハビリテーションを中心に幅広く話がありました。その中でも一番印象に残ったのは、長崎リハビリテーション病院のスタッフと地域の方々がダンスを披露している動画でした。日頃から地域の方々と密着している病院だからこそ撮影できた動画であると感動しました。

私は回復期リハビリテーション病棟に勤務しており、普段からチーム医療ということ意識しているつもりでした。しかし、今回の講演のように、チーム医療という概念を病院内にとどめず、地域全体を一つのチームとして機能させる為に、山梨県でも行政や地域と協力しやすい関係を構築していなければならないと思いました。栗原先生を目標に、自ら率先して地域に働きかけ、病院だけでなく、地域全体を動かしていけるようなセラピストを目指していきたいと思います。

---

## 「第1回特別支援教育委員会研修会で学んだこと」

甲府共立診療所 小児リハ 増田 歩実

私は普段、発達障害の子供のリハビリをしています。今回の研修会には、大人の発達障害の方の実生活での困り感を具体的に学び、普段の業務につなげられると思い、臨みました。研修を通して、当事者が社会生活を送っていくにあたって自ら同僚や上司に支援や理解を求められるような力を付けるために、自身の得意不得意を把握して自己理解を促すことや、当事者を支える家族にも幼児期や学童期から丁寧に説明を行い、特徴の理解を促すことが必要であると考えました。また、専門機関として当事者が周りから理解を得られるように申し送りを丁寧にを行い、当事者をとりまく環境への支援をすることが必要であると考えました。普段のリハビリでは、現在の子供の困り感に対するアプローチで精一杯でしたが、将来の見通しを持って介入していく必要があることが再確認できました。

---

## 「生活期リハビリテーション研修」

竜王リハビリテーション病院 両角 奈津岐

11月17日に行われた、山梨県生活期リハビリテーション研修会に参加してきました。テーマ「座るからはじまる…」の中で、実技を交えながら起居・移乗動作やポジショニングの基礎をPT・OTの先生方に教えて頂く貴重な機会でした。今まで基礎を学ぶ機会が少なかったので、介助する側とされる側の全身の動きや使い方を学び、ひとつひとつの動作のポイントを考えるきっかけとなりました。実技では不慣れで戸惑う事も多かったのですが、その都度アドバイスを頂き、知識を深めることができました。座るからはじまり、姿勢によって言語機能や嚥下機能に大きな変化があることを再認識した機会でもありました。今回の研修会を通して得た知識を活かしつつ、知識不足な部分はPT・OTの方々の協力を得ながら、姿勢やADLの評価も日々のリハビリの中で積極的に行えるようにしていきたいと感じました。



### 令和元年度 第1回理事会議事録

日 時：平成31年4月12日(金) 18時41分～21時41分  
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、市川、桂川、小池、佐々木、高橋、中嶋、元木、山田、吉澤、河西

#### <協議事項>

1. 第12回学術大会の実行委員長が元木理事に決定した。
2. 休会規程について審議を行い承認された。平成31年4月12日より施行し、総会にて報告することが決定した。
3. 第1回・第2回基礎講座の日程、講師が決定した。
4. 失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修第5回伝達講習会を6月または7月に開催することが決定した。
5. 20周年記念誌を全ページカラー印刷することとなり、令和元年度の会報編集・HP管理部の予算増額が決定した。
6. 介護予防事業「笛吹市やってみるじゃん」において、認知症、難聴、加齢に伴う嚥下障害などの講話・予防体操の講師派遣を認知症対策推進委員会の活動として行うことが決定した。

### 令和元年度 第2回理事会議事録

日 時：令和元年5月31日(金) 18時35分～20時29分  
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、市川、桂川、小池、佐々木、高橋、中嶋、山田、吉澤、河西

欠席理事：元木

#### <協議事項>

1. 外来リハ、訪問リハ、訪問看護、通所リハ、通所介護に関する実態調査案の鏡文、内容が決定した。
2. 失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修第5回伝達講習会で当事者に協力を依頼することが決定した。
3. NPO法人Ubdobe主催の医療福祉系謎解きイベント～Mystic Minds～への協力が決定した。
4. ニュースレターの賛助会員用の広告について、今後は、年度替わりに広告用データの提出を依頼することが決定した。
5. 第12回学術大会を令和元年12月8日、山梨大学医学部キャンパス臨床大講堂にて『共生社会の実現に向けて～言語聴覚士がつかなく地域との和～』のテーマで行うことが決定した。
6. 実行委員会出席時に交通費を支給することが承認された。

### 令和元年度 第3回理事会議事録

日 時：令和元年6月21日(金) 18時42分～21時15分  
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、市川、桂川、小池、佐々木、高橋、中嶋、元木、山田、吉澤、河西

#### <協議事項>

1. 特定非営利活動法人 言語障害児・者社会活動支援の会の「失語症友の会設立・連絡・調整義務を支援する助成金」について申請を行うことが決定した。
2. 令和元年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修の参加者が池神理事と坂井STに決定した。
3. 地域リハビリテーション従事者研修会実行委員会の委員に桂川理事が選出された。
4. 「外来リハ、訪問リハ、訪問看護、通所リハ、通所介護に関する実態調査」結果について、ホームページに掲載することが決定した。
5. 県立図書館に『ご家族が「失語症」になったら手に取る本』、『高齢者摂食嚥下サポーター老嚥・オーラルフレイル・サルコペニア・認知症』の2冊を寄贈することが決定した。

冊を寄贈することが決定した。

6. いきいき山梨ねりんピックでの活動内容が、誤嚥性肺炎の理解・予防に関する啓発活動、ピークフローメーターを用いた咳嗽力測定に決定した。
7. 20周年記念誌のページ構成が決定し、理事が中心となり執筆していくことになった。
8. 第12回学術大会の名称後援を12団体に依頼していくことが決定した。
9. 学術大会特別講演の内容・時間が決定した。

### 令和元年度 第4回理事会議事録

日 時：令和元年7月19日(金) 18時39分～20時47分  
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、市川、桂川、小池、佐々木、中嶋、元木、山田、吉澤、河西

欠席理事：高橋

#### <協議事項>

1. 9月28日開催のいきいき山梨ねりんピックについて、県士会からボランティアを10名程度募集することが承認された。
2. 第12回学術大会の予算案が承認された。
3. 来年度以降は、学術大会予算の総額や適切な実行委員数に関して検討していくこととなった。
4. 失語症友の会全国大会を来年度、当県で開催することが承認された。

### 令和元年度 第5回理事会議事録

日 時：令和元年8月23日(金) 18時44分～21時20分  
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、市川、桂川、小池、高橋、中嶋、吉澤、河西

欠席理事：佐々木、元木、山田

#### <協議事項>

1. 「令和元年度 介護職場人材育成研修」の講師が佐々木理事、山田理事に決定した。
2. 今年度のST協会活動支援補助金について、12月の学術講演会を対象とすることが決定した。
3. 第12回学術大会の査読方法と査読委員が決定した。
4. 学術大会後の懇親会会場が山梨グランドホテルに決定した。

### 令和元年度 第6回理事会議事録

日 時：令和元年9月20日(金) 18時36分～21時28分  
出席理事：内山、赤池(三)、赤池(洋)、池神、市川、桂川、小池、佐々木、高橋、元木、山田、吉澤、河西

欠席理事：中嶋

#### <協議事項>

1. 失語症当事者の作品紹介・販売活動を支援する目的で、「ふじやま」に参加している当事者の作品を学術大会のチャリティーバザーで販売することが承認された。
2. 第12回学術大会の座長が決定した。参加費を2000円(弁当代込)とすることが承認された。

場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院

議 長：内山量史

書 記：坂井 李菜、林 正裕、高橋里実

議事録作成：河西祐子

## 《各局からのお知らせ》

### 事務局

#### 〈総務部〉

- ・ 会員動向（令和元年 12 月末現在）  
正会員数 135 名 賛助会員 8 団体  
新入会：木野 香奈美先生  
(ツル虎ノ門外科リハビリテーション病院)  
渡邊 真帆先生（山梨赤十字病院）
- 年度末に向けて異動の多い時期かと思えます。会員名簿記載事項に変更のある方は速やかに「会員異動届」の提出をお願いいたします。届出用紙は県士会 HP からダウンロードできます。

#### 〈財務部〉

- ・ ほぼ全員に会費を納入していただきました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

### 学術局

昨年は念願であった生涯学習プログラムの専門講座を皆様のご協力を得て開催することができました。学術局主催の講演会・研修会にご参加いただきましてありがとうございました。

#### 〈教育部〉

- \* 第 7 回新卒者研修会（令和元年 12 月 16 日開催）をもって今年度の新卒者研修会を終了しました。

#### 〈生涯研修部〉

- \* 症例検討会
- ・ 第 5 回症例検討会  
日 時：令和 2 年 2 月 20 日（木）18：30～  
会 場：甲府市東公民館  
発表者：石垣亮太先生（山リハ）  
バイザー：望月真由美先生（甲府共立）

#### \* 小児領域勉強会

- ・ 第 5 回小児領域勉強会  
日 時：令和 2 年 2 月 15 日（土）14：30～  
会 場：甲府共立診療所  
内 容：「K-ABC II の方法と解釈」  
講 師：渡邊 要先生（健康科学大クリニック）

### 社会局

#### 〈渉外部〉

- ・ 令和元年度山梨県民間病院協会 PTOTST 部会研修会（講師：大嶋伸雄先生）が 10 月 18 日に甲府市民会館芸術ホールで開催されました。
  - ・ 令和元年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会が 10 月 26 日～27 日に東京で開催され、池神理事、坂井 ST が参加しました。
  - ・ 日本語聴覚士協会秋季都道府県士会会長会議が 11 月 2 日に東京で開催され、赤池三紀子副会長が出席しました。
  - ・ 関東圏都県士会第 4 回会議が 11 月 2 日に東京で開催され、赤池三紀子副会長が出席しました。
  - ・ 令和元年度地域リハビリテーション従事者研修会（講師：栗原正紀先生）が 11 月 28 日に山梨県立文学館で開催されました。
  - ・ その他にも関連団体や行政、地域との連携・協力に向けて会長、副会長、理事、会員が参加・協力しました。
- 今後も日本語聴覚士協会や山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会、山梨県介護支援専門員協会などの他団体との連携や行政との連携・協力を行っていきます。

#### 〈広報部〉

- ・ いきいき山梨ねりんピックが 9 月 28 日に小瀬スポーツ公園で開催され、県士会会員 11 名がブース出展、広報活動に参加しました（ブース来場者 272 名）。
  - ・ 郷育フォーラム 2019 が 10 月 6 日に甲府市総合市民会館で開催され、高橋理事、飯塚 ST が参加されました（イベント来場者 2000 名、当士会職業体験参加者数 20 名）
- 今後も一般市民に向けた言語聴覚療法の広報及び啓発活動を図っていきます。

#### 〈会報編集・ホームページ管理部〉

- ・ 会報誌「県士会 NEWS」44 号、45 号を発行しました。また、当士会設立 20 周年記念誌を発行しました。
  - ・ ホームページでは県士会や言語聴覚士の広報活動の一助となるように情報の収集・発信を推進していきます。また、会員向けのお薦め情報など、旬な情報も随時提供していきますので是非ご覧下さい。
- 今後も会員の皆様のご協力を宜しくお願い致します。

## やさしい聴こえのお手伝い



- 認定補聴器技能者在籍
- 試聴器の無料貸出
- 支援法補聴器取り扱い

写真：シグニア補聴器 スタイルレット 充電式



認定補聴器専門店

## 山梨リオン補聴器センター

甲府店 ☎ 0120-29-3321 玉穂店 ☎ 0800-800-8173  
甲府市中央5丁目2-29 中央市若宮29-3 T-ウエスト

## 私たちはシャント発声のプロフェッショナルです

喉頭を摘出された方々のQOL向上のために、シャント発声のリハビリテーションや患者さまを対象にした勉強会を行っています。シャント発声について興味のある言語聴覚士の皆さまには、実際のリハビリテーションの様子や勉強会を公開しておりますので、お気軽にお問合せください。



**Atos**  
Atos Medical Your voice

株式会社アトスメディカルジャパン

〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 新川三幸ビル2F  
tel 03 4589 2830 / fax 03 5540 0890  
info.jp@atosmedical.com

HEALTH CARE FOOD

在宅 通信販売

Healthy Network



病院で使われている介護食を  
ご家庭にお届けしています。

- ☑ 噛むこと、飲み込むことが苦手な方に
- ☑ 飲食時によくむせる方に
- ☑ 食の細かい方に

やわらかさの程度や形態別に分類されたおかず、  
とろみ調整食品や濃厚流動食品が掲載  
されています。また、栄養指導で  
役立つコラムも多数ご紹介して  
います！

とろみ調整食品は  
トロミパワースマイル  
がオススメ！

カタログのご請求・お問い合わせは

〒191-0024

東京都日野市万願寺1-34-3

株式会社ヘルシーネットワーク  
0120-236-977 受付時間 9:00~17:00※日・祝除く

ヘルシーネットワーク 検索 <http://www.healthynetwork.co.jp>

ヘルシーフード 検索

かきまぜても離水しにくい新しいゼリー

## まぜても ジュレ

従来のゼリーにはない特性を持った  
リセットゲルになります

- クラッシュしても離水しにくい
- 再結着性(まとまり)がある
- よくかきまぜるととろみ状になる



〒252-0143 神奈川県相模原市 緑区橋本4-19-16 OMGビル  
TEL: 042-700-0555 FAX: 042-700-7444



おいしく、たのしく、嚥下リハビリのお手伝い

## 摂食嚥下リハビリ食のラインナップ紹介

様々な製品を取りそろえています。

<p>毎食頂く毎に楽しめる 10種類の味</p> <p><b>エンジョイゼリー</b></p> <p>プレーン いちご コーヒー チョコレート あずき味 バナナ味 さや 抹茶 スイートポテト味 りんご味</p>	<p>個別の栄養状態に合わせた 食べやすさ</p> <p><b>エンジョイカップゼリー</b></p> <p>いちご味 キャラメル味 あずき味 コーヒー味 りんご味 マンゴ味</p>	<p>原産地を指定される40g</p> <p><b>エンジョイ ハイカロリーゼリー</b></p> <p>りんご味 もも味</p>	<p>とろみの食の向上とはやさしい</p> <p><b>とろりんこ quickly</b></p>
---	---	---	---

他にもおいしく栄養が摂れる、豊富なラインナップがそろっています。資料・サンプル等のご請求はお気軽に。  
☎ 0120-52-0050 [クリニコ] 検索 <http://www.clinico.co.jp>

産別乳業グループ栄養機能部門  
株式会社クリニコ

唾液のチカラで健康と笑顔を  
お口をやさしくケア ペプチサル・シリーズ

## Pepti-Sal



Pepti-sal(ペプチサル)とは、

「Peptide (ペプチド)」+  
「Saliva (唾液)」の造語。

唾液のチカラに着目して開発された  
低刺激性のオーラルケア製品です。  
デリケートなお口をやさしくケアし、  
お口の環境を健康に保ちます。  
要介護の方のケアにもおすすめです。

2014年12月発売



T&K ティーアンドケー株式会社

☎ 0120-555-350

[www.comfort-tk.co.jp](http://www.comfort-tk.co.jp)



「医療専門家 × 医療機器ベンチャー × フードケア」  
連携の新しい会社「カレイド株式会社」

何気ない普段の「おいしい、もぐもぐ、ごっくん」の三拍子が、  
上手くできない方々への「あきらめない」を応援したい。

3年目のカレイド、そして

「ジェントルスティム(干渉電流型低周波治療器)」を  
よくお願いいたします。



オーエムジープファミリー QOL(生活の質)を支える「食事・嚥下ケアカンパニー」として日本から世界へ

「ケア食」で毎日を楽しむ  
株式会社フードケア  
TEL: 042-700-0555 FAX: 042-700-7444

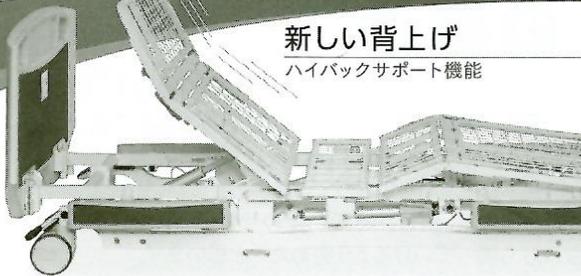
「ケア器」で毎日を支える  
カレイド株式会社  
TEL: 042-700-8830 FAX: 042-700-8840



誤嚥リスクの低減

新しい背上げ

ハイバックサポート機能



P300  
シリーズ

医療・介護ベッドメーカー

株式会社  
**プラッツ**  
<http://www.platz-ltd.co.jp/>

■関東支店 / 関東ショールーム

〒105-0014 東京都港区芝2-16-9 芝YSビル3F

TEL.03-5427-8033 FAX.03-5427-8031

■福岡本社 ■北海道 ■宮城 ■東京 ■愛知 ■大阪 ■広島